

第1回東大阪市上下水道事業経営審議会 議事概要

1. 開催概要

日 時	令和5年6月27日（火）15:00～16:45
場 所	東大阪市上下水道局 水道庁舎2階 第1会議室
出 席 者	<u>委 員</u> 笠原会長、中嶋副会長、小出委員、石田委員、松浦委員、 覚道委員、梶原委員、森岡委員 <u>理事者</u> （上下水道局）植田、賀川、木邨、蜂谷、神谷、熊野、西尾、 安田、大田、上山、樋口 <u>庶 務</u> （上下水道局）巽、佐藤、尾崎、下別府、中島、塩田
次 第	1. 開会 2. 上下水道事業管理者あいさつ 3. 会議の公開及び傍聴者の入場 4. 委員および出席者の紹介 5. 会長および副会長の互選 6. 会長および副会長あいさつ 7. 議事 （案件1）審議会の概要 （案件2）東大阪市水道事業の概要 （案件3）東大阪市下水道事業の概要 8. 閉会
配布資料	資料-1 審議会委員名簿 資料-2 出席者名簿 資料-3 審議会規程 資料-4 審議会の概要 資料-5 水道事業の概要 資料-6 下水道事業の概要
傍 聴 者	1名

2. 会議内容（要旨）

案 件	主な意見・質問	回 答 等
東大阪市水道事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 東大阪市は借金が多いにも関わらず水道料金が低いのは、どういう意味なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪は琵琶湖からの水ということで水源にかなり恵まれている。市街地ということもあり、全国平均に比べて安価になっている。
	<ul style="list-style-type: none"> 借金がある状態でコロナ禍に減免をすれば、経営は成り立たないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で減免した分については、市の一般会計、つまり国の補助金等を使っている。あと、大阪広域水道企業団の受水単価の減額等もあったことから、水道会計からの大きな負担なくコロナ減免を実施できた。
	<ul style="list-style-type: none"> 企業債残高が平成29年から右肩上がりになっている理由は。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内で2番目に大きな施設である上小阪配水場の耐震工事に取り掛かったことによるもの。また、管路の更新率についても、この時期から延長距離を上げており、管路更新も伸びてきている。 令和元年度以降については、事業に対する企業債充当率を上げている。
	<ul style="list-style-type: none"> 水を送るだけでなく、水質の方にもかなりの費用がかかるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 東大阪市の水は、ほとんどが大阪広域水道企業団（以下、企業団）からの受水であり、企業団からは浄水処理された水が送られているので、受水については東大阪市内で浄水処理しなくても良い。
	<ul style="list-style-type: none"> 過去は企業団以外の水を使っていて、企業団から送られてくるようになって水質が良くなったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 受水元が変わったのではなく、昔は高度浄水処理がされていなかった。現在は、オゾン処理など高度な浄水過程を経た水が企業団より送られているので、浄水器を付けなくても飲みやすい水になっている。 （補足）企業団は元大阪府営水道である。府営水道時代の平成10年夏から全量高度浄水処理を導入し、オゾンと粒状活性炭による処理をしている。大阪市も高度浄水処理をしている。高度浄水処理

案 件	主な意見・質問	回 答 等
	<ul style="list-style-type: none"> • 水道水を蛇口から捻って直接飲むというのは、若い世代には抵抗がある。 • 昔は臭いがしていたので抵抗があったが、現在は高度浄水処理をしているので、抵抗なく飲むことがきている。ただ、今も浄水器を付けている方はいる。 • 環境の立場から言うと、水道水は厚生労働省の管轄で水質基準は51項目であり、浄水器を付けなくても大変美味しい水になっている。蛇口からの水をそのまま飲むよりも、冷やして飲めば美味しい。 	<p data-bbox="986 309 1394 450">が導入された時期からは、水源の琵琶湖に起因する水道水のカビ臭が消えたので臭いに関する苦情がほぼなくなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大阪は直接水道水を飲むことに対する抵抗感が根強い。恐らく琵琶湖の水質が悪化したことが問題になった頃にとった行動が後々まで感覚として残っていて、その後高度浄水処理の導入等の改善を図っても、刷り込まれた感覚がなかなか消えない感じがする。
	<ul style="list-style-type: none"> • KPIの「水道に対する満足度」について、令和元年度の63.5%から令和2年度は45.6%まで下がっているのは、何か明確な要因があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> • アンケートの母数が異なっていることが主な要因である。令和元年度は水道ビジョンの策定に伴い2,000人規模のアンケートを実施したが、令和2年度および令和3年度はそこまで大規模なアンケートは実施していない。
	<ul style="list-style-type: none"> • 人口が減っている中で給水戸数がどんどん増えているという状況である。小口利用者が増えており、しかも水道料金として非常に安いところの利用者が増えているという状況が続いていると思う。この傾向はどのようになると分析しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 給水人口はこのまま右肩下がりになると予測しているが、給水戸数の長期予測については、ある程度で頭打ちになり、その後下がっていく予測をしている。 (※補足：水道ビジョン策定時の水需要に関する令和42年度までの長期予測結果では、給水戸数は令和6年度～9年度をピークに減少していくと予測している。) • 給水戸数は、昨年度も今年度も右肩上がりが続いている。(給水)件数は増えて水量も増えて、ただ収入は減っている、悪化している状況もある。今後は、その辺りも見

案 件	主な意見・質問	回 答 等
	<ul style="list-style-type: none"> 水道管路の更新について、ビジョンの描き方など、現時点での見通しを教えてください。 	<p>据えつつ検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東大阪市の直近の管路更新率は令和4年度で0.88%と全国平均より上の水準になる。今後、これを1%とすることを目標としている。
東大阪市下水道事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 雨水対策事業費用にかかる繰入額算定基準について。経営戦略において平成30年度時点の繰入額が類似中核市平均約2倍となっている理由について。 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水対策事業費用にかかる繰入額算定基準は、事業の財源となる企業債の償還に基づき算定。平成30年度時点における繰入額が類似中核市平均約2倍となっている理由については、平成期に集中して実施した雨水対策事業にかかる企業債の償還が高水準で継続しているため。
	<ul style="list-style-type: none"> 7頁の中、『今後の雨水事業は予断を許さない状況である』と記載されているが、計画当初以上の昨今のゲリラ豪雨により降水量が増加傾向にあり、これを踏まえたうえでの雨水事業を実施する必要性が生じているため、このような記載となっているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> お見込みのとおり。
	<ul style="list-style-type: none"> 下水ポンプ施設にかかる緑化推進の未実施について。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水ポンプ施設における緑化推進は未実施であるが、市全域においては緑化推進を行っているものとする。 補足事項として、現状の下水ポンプ施設は市街地・工場地帯に立地し、必要最低限土地面積の保有であり、植樹スペース確保は困難であるが、東大阪市としての緑化推進事業には下水道部としても可能な限り取り組む意向。 近畿大学横の施設は配水場（水道施設）であるが、なるべく緑行政ともタイアップしながら、少しでも緑を増やし親しみやすい配水場を目指したい。

案 件	主な意見・質問	回 答 等
	<ul style="list-style-type: none"> 東大阪市の下水道管の大半が合流管で整備済と認識。再度、下水道の整備状況、雨汚水の放流先について確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 東大阪市の下水道管の84%は合流管として整備。地形の性質上、東地区は分流管で整備。合流管処理能力以上の雨水が豪雨により流入された場合、既設管のさらに地下に整備済の増補管に流入するよう整備。放流先については川俣水みらいセンター等の大阪府・大阪市の処理施設に大半を放流する仕組み。
	<ul style="list-style-type: none"> 6月2日の豪雨による浸水被害状況は？ 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点において浸水被害状況について報告なし。
	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の雨量に即したハザードマップ改訂について。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の雨量に即した10万整備のみでなく、詳細な気象情報を事前に発信することを組み合わせ、災害を未然に防ぐことが、現在の行政に求められると考える。
	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業成果や重要性を市民周知することについて。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業成果の広報については困難であると認識しているが、現時点においてYouTube配信等により、市民周知に取り組んでいる状況である。